

令和4年度秋田県健康づくり審議会歯科保健分科会議事録

1 日時

令和5年3月6日（月）午後6時00分～午後7時30分

2 場所

議会棟2階 特別会議室

3 出席者

委員名簿参照

（明石委員、石井委員、鈴木委員、畠山委員、甫仮委員はオンライン出席、福田委員は欠席）

4 配付資料

資料1 : 令和4年度歯科保健対策施策報告書（案）

資料2 : 令和4年度フッ化物洗口事業市町村別実施状況

資料3 : 入所施設における歯科口腔保健状況に関するアンケート結果

資料4 : 令和4年度県民歯科疾患事態調査結果概要

資料5 : 第2期秋田県歯と口腔の健康づくりに関する基本計画について

参考資料1 : 秋田県歯と口腔の健康づくりに関する基本計画

参考資料2 : 秋田県歯と口腔の健康づくり推進条例（改正後全文）

参考資料3 : 健康日本21（第二次）10年の取り組みと最終評価

参考資料4 : 健やかな子育て支援のチェックリスト

5 内容

（1）開会

（2）あいさつ

（3）出席者紹介

（4）分科会長選出

(5) 報告

- ①令和4年度歯科保健対策施策の実施状況について
- ②令和4年度県民歯科疾患実態調査の実施状況について

(6) 議題

- ①第2期秋田県歯と口腔の健康づくりに関する基本計画について
- ②その他

(健康づくり推進課 辻田課長挨拶)

本日はお忙しい中、秋田県健康づくり審議会歯科保健分科会に御出席をいただき、誠にありがとうございます。また日頃から本県の健康づくり施策全般に対しまして、御尽力をいただいていることに対しまして重ねて御礼を申し上げます。さて、歯と口腔の健康を保つことは健康で生き活きとした生活を送る上での基盤であります。また健康寿命の延伸においても欠かせないものでございます。このような中で県では秋田県歯と口腔の健康づくりに関する基本計画に基づき、それぞれのライフステージに応じた歯科保健事業に取り組んでおります。12歳児のむし歯の本数については、全国平均を下まわっている状況で、フッ化物洗口の効果が少しずつ表れてきているのではないかと考えておりますが、一方で働き盛り世代の方々、昨年度、40、50代の方を対象に実施をした実態調査では、約2割の方がオーラルフレイルの兆候が見られたということでございます。今後は歯周病対策に加えまして、オーラルフレイル予防にも一層取り組む必要があると考えてございます。さて、本年10月には、本県では初の開催となる全国歯科保健大会が秋田市で開催される予定になっております。全国から多くの関係者の方々がお集まりをいただいて、本県における歯科保健医療のますますの発展というものが期待されるところでございます。また9月には、全国食生活改善大会、全国食生活改善推進員協議会大会の開催も予定されております。適切な食生活というのは、歯と口腔の健康に密接に関わるものでございますので、これらの三つの全国大会を通じまして本県の歯科と栄養が一体となって一層推進されることが期待されるところでございます。さて、本日の会議では次第に記載の通り、歯科保健施策の実施状況や、今年度実施した歯科疾患実態調査のご報告を申し上げまして、来年度実施予定の次期基本計画の策定について御協議をいただく予定としております。本県における歯科口腔保健の一層の推進のために、皆様方からは忌憚のない御意見を頂戴したいと思

います。簡単ではありますが、開会の挨拶といたします。本日はよろしくお願いいたします。

(健康づくり推進課 長谷川班長)

分科会長の選出だが、委員の互選により選出することになっているが、いかがか。

(歯科衛生士会 甫仮委員)

秋田県歯科医師会の藤原委員はいかがか。

(健康づくり推進課 長谷川班長)

藤原委員の推薦があつたが、皆様異議はないか（異議なしの声）。異議はないものとし、ここからは分科会長の藤原委員に進行をお願いする。

(歯科医師会 藤原分科会長)

次第に入る前に、会長代理を秋田県学校保健連合会の佐々木委員をお願いする。それでは議事を進める。

(健康づくり推進課 田所技師)

(資料1～3について報告・説明)

(歯科医師会 藤原分科会長)

ここまでで、質問や意見をいただきたい。

(栄養士会 明石委員)

口腔と栄養の研修会に参加したが、内容が良く栄養士会の会員からも大変好評だった。これから、歯科と栄養が協働して、色々な事業に参加する足掛かりになる内容だったのではないかなと思う。

(牛島ルンビニ園 石井委員)

オーラルフレイルの予防啓発事業の事業内容の①広報活動について、オーラルフレイル予防に関して啓発の動画を用いたり、様々な活動されていてとても良いと思った。その活動内容で私個人的な意見だが、DVDなど用いて幼保や小中学校などに配布されると、保健の関係の先生たちで子供たちに歯科のオーラルフレイルの大切さやフッ化物洗口の大切さなどを伝えていけるのではないかなと思った。そのような活動も今後取り入れていただければ良いと思う。

(歯科医師会 藤原分科会長)

明石委員から口腔と栄養に関しての話があった。先日、訪問歯科衛生士の研修会があり、歯科衛生士がターミナルのケアをしている紹介があった。食べること、飲み込むことは、患者さんにとって大変重要なことである。健康なうちから食べること、良好な口腔環境を維持することは、ずっと積み重ねて教えていかなければならない。ターミナルの方にも最後においしいと言ってもらえるような環境をつくることは、我々の仕事だと思った。オーラルフレイルの普及啓発については、フッ化物洗口同様に各学校で子供の頃から教育していければ良いと思う。

(小・中学校長会 伊藤委員)

フッ化物洗口の実施状況を見ましても、秋田市の小中学校は100%実施している。洗口の仕方は先生が保健の先生から習って、それを子供たちに指導しており、大分定着している。実施していてありがたいと思うのは、年に1回、市の保健所の歯科衛生士や学校歯科医がいらして、フッ化物洗口の状況を見てくださったり、やり方を褒めていただいたり、最後に歯科衛生士からクイズ形式で歯科の知識を子供たちにお話して、それが非常に子供たちのモチベーションに繋がっているなど感じる。洗口開始直後の頃はおいしい味だったが、飲み込む子がいるということで、今はシナモン味で美味しくないものになっている。当校は水曜日が実施日となっているが、水曜日は気分がブルーだという声がある。学校に来るのにブレーキがかかったっていうこともあり、原因は何かといったらそれだったということがあった。沢山ではないが、一部児童にそのようなことがあった。歯科衛生士から歯についてのそうした話を聞くと、頑張ろうという気持ちになるといっており、ありがたいなと思っている。

(医師会 遠藤委員)

質問であるが、秋田市のフッ化物洗口について、小中学校ではそれなりの実施率である一方で、幼稚園や保育園、認定こども園、それから特別支援学校などは、全く実施できていないという現状のようだ。他の市町村では結構実施できているが、秋田市で実施できていない理由はなにかあるのか。

(歯科医師会 藤原分科会長)

私は障害あるなしにかかわらず必要と思う。支援学校に関しても、うがいができる人はできる。秋田市の実施していない理由について、県で把握していることがあるか。

(健康づくり推進課 田所技師)

秋田市の牛島ルンビニ園の石井委員に伺いたい。フッ化物洗口を実施できない理由で想定されるものはあるか。

(牛島ルンビニ園 石井委員)

秋田市の保育園全体でなく、牛島ルンビニ園についてであるが、子どもは0歳児から5歳児まで6クラスあるが、全ての保護者に対してフッ化物洗口に関する効果や啓発を伝えることができないということ、そして、その保護者からの了承をまだ得られていないというところが一つあるかなと思う。これに関しては、もちろん他の先生たちの意見があると思うので、私個人の考えだと理解いただきたい。

(健康づくり推進課 田所技師)

フッ化物洗口自体は、主に5歳以上が対象で、年長さんにあたる年齢が対象となる。他の市町村で、例えば公立の園であったり、町や市の事業として実施してるところは比較的スムーズに実施できていると思うが、秋田市の場合、私立も多いので、必ずしもそこが一律に市町村事業として実施できていないというのも一つ原因にあるかと思う。実施に向けての情報提供は県側からもしている。一方で、非常に行政的な問題になってしまうが、秋田市は中核市であり保健所設置市である。県型保健所が容易に介入できないという点も、実施に至らない原因なのかもしれない。必ずしもこれが原因だということのはわかりかねていところである。

(学校保健連合会 佐々木委員)

秋田市の幼稚園等でフッ化物洗口が行われていないということに関してだが、秋田市でフッ化物洗口を行う時は、小学校から開始し、その後、中学校まで拡大した。それを今度低い年齢層にも実施しようということだったが、秋田市の事業として行う上で、やはり私立なので、どうしても市の行政の範囲内では及ばないところがあった。これは例えば附属小・中学校も国立なので、そこも実はフッ化物洗口を行うことができていなかった。その後、5、6年前か、附属小・中学校においては、直談判に行き、附属小・中学校も幼稚園もフッ化物洗口の実施に至ったが、どうしても私立に関しては行うことができなかった。それで秋田市はどうしたかという、1～5歳児を対象に、歯科医院でフッ化物塗布事業を行っている。これは無料券を配布し、その対象年齢になったら、予算の関係で年1回だがフッ化物を塗布する。その後は必要があれば、自費で対応してもらうことになるが、一

応秋田市では幼稚園や保育所で行われていないという代わりに、市の事業として歯科医院でフッ化物塗布を行っている。

（歯科医師会 藤原分科会長）

現場の声ということで、佐々木委員の今のお話も十分に理解した。そもそもこのフッ化物の洗口事業というのが、5歳児からであるが、一番最初に始めるときに、5歳児からは大変だなという話になり、佐々木委員が言ったように小学校からの開始となった。いずれにしても、秋田市は独自にフッ化物塗布を行っているので、フッ化物応用としての報告を集められたらいいと思う。佐々木委員、秋田市から資料を出していただくことは可能か。

（学校保健連合会 佐々木委員）

県から秋田市歯科医師会に言ってもらえれば可能かと。

（歯科医師会 藤原分科会長）

では、行政のほうでお願いします。

（学校保健連合会 佐々木委員）

今年度も制約のある中での事業ということだったが、工夫して実施されており、大変ありがたく思っている。その中で、親子よい歯のコンクールや8020いい歯の表彰などの、表彰事業というのは県民の口腔内の健康のモチベーション向上に重要だと思っている。子どもから高齢者まで、歯が良いという観点から自分の健康を表彰してもらい喜んでいることは素晴らしいことである。特に、8020いい歯の表彰でいただける賞状が非常に立派で、びっくりして私の歯科医院まで報告に来て、本当にありがとうございましたと感激してお帰りになったことがあった。「これからも頑張ります」と言っていたいたときは、非常に嬉しかった。こういった表彰事業は、いろいろ制約はあるかもしれないが、是非とも引き続きやっていただきたいと思っている。それからフッ化物洗口事業だが、秋田県では平成16年、秋田市では平成21年ぐらいから始めたと思うが、当初全国下から2番目、最下位が沖縄という状況で、もうどうしようかということだったが、亡くなられた臼井先生の御尽力もあり、ようやくフッ化物洗口事業が開始された。当初予想したよりも効果があり、今ではもう全国8位。これもフッ化物洗口事業をやりっ放しではなく、その都度検証し、対応してくれた県の先生たちのおかげだなと思っている。また先ほど伊藤委員から話があったように、秋田市の小学校中学校では、学校歯科医、保健所の歯科衛生士それから養護教諭、校長はじめ年に1回集まってフッ化物洗口の実態を学校ごとに再確認し、よ

り効果がでるように実施している。このようなことも非常に重要なので、是非とも引き続き実施していただきたい。それから研修会、コロナ禍においてはオンラインで実施してきたが、今後は実開催も増えてくるかと思うがよろしくお願ひしたい。それから、オーラルフレイル予防啓発事業で、広報活動と人材育成、復職支援、これについて話があった。これについては、今後も引き続き行っていくということによいのか。こういった公衆衛生活動、地域保健活動というのは継続して行うことが非常に重要なので、広報活動、それから人材支援も引き続きお願ひしたい。

（歯科医師会 畠山委員）

先ほどの栄養に関してだが、医師会、歯科医師会、看護そして栄養士会そしてケアマネもポイントになると思うので、できれば共通のテーマで、何か研修会などを開催できればと考えている。また先ほどの入所施設における歯科口腔保健の状況だが、今度令和6年の介護保険の改定によって、口腔に関心をもっている施設も出ている。歯科医師、歯科衛生士はもちろん、施設職員向けの研修会も開催できればと思っているのでよろしくお願ひしたい。

（歯科衛生士会 甫仮委員）

今年度、県から委託いただいた、オーラルフレイル予防啓発人材育成の事業についてお話をさせていただきたい。2回の研修会を開催させていただき、1回が歯科衛生士によるオーラルフレイル予防啓発に関する研修と、もう一つが、栄養との密接な関係ということで、大妻女子大学の栄養士の川口美喜子先生にお願ひした。これは各種関係団体に案内していたと思うが、歯科衛生士の参加が多く、私たちの周知が足りなかったのかもしれない。もっと多くの職種の方に参加していただければ良かったのかなと思っている。次からの反省として考えている。フッ化物洗口について、私が住んでいる由利本荘市においても、幼保、認定こども園での進捗が今一歩進んでいない。しかし中学生など、ある程度大きくなった子どもたちはもうちょっとなんとかならないかなと思う。由利本荘市の中学校では、他市町村が100%近く実施している状況と比較し、30%程度というのは何とか改善したいと思った。由利本荘市なかなか進まないことで、むし歯の罹患率が高いなど、そのようなデータは、県で何か把握しているものか。

(歯科医師会 藤原分科会長)

今の話だが、私も由利本荘市で、今進めようとしているが、コロナ禍で延期されていると考えている。例えば、新山、鶴舞、東中学校はコロナ前は実施する方向で予定されていた。

(看護協会 山岡委員)

私は今年度から分科会委員になったが、様々な事業をしているなという印象をもった。食べるということは生きるということだが、若い人にも重要なことである。口腔の健康を高めることは非常に重要であり、看護協会としても様々な事業の中でできることがあるか考えつつ、色々なところで協力をしたいと考えている。オーラルフレイル予防啓発事業の人材育成について、この復職支援サロンで、どれくらいの人数が参加して、復職に繋がったかを把握していれば教えていただきたい。

(歯科衛生士会 甫仮委員)

2か所で実施し、大館市は6名、秋田市は5名の参加であった。まだ始めたばかりの事業で、実効性のある内容になっていない点も多い。参加人数についても、新聞や広報誌で周知しているところだが、継続して実施することで、さらに多くの人に参加してもらえるような、そうした復職支援の事業になっていくよう頑張っていきたいと思っている。

(歯科医師会 藤原分科会長)

まだ2回しかやってないため効果まではない。それから口腔ケア研修会などで、看護師と歯科衛生士が協力してやるニーズは十分あると思う。

(社会福祉協議会 鈴木委員)

資料の中で気になったのが、8020運動の事業のところについて、一般県民向けの研修会を実施されている状況が書かれていた。コロナ禍ということで、計画通りいかなかった部分もあると思うが、実は私どもの方でも、高齢者の健康生きがいを目的とした、ロングライフ講座を県内数か所で開いており、同じく一般県民向けの座学とそれからニュースポーツや運動を取り入れながらやっている。今回はこういう取り組みをやっているというのを正直勉強不足で初めて知ったところだが、機会を通じて一緒にタイアップしてできるような可能性があれば、その辺を模索していきたいと思った。いずれ来年度については、今年度以上にいろいろ事業も拡大していくと思うので、連携できる部分があれば一緒に取り組んでいければと思った。

(健康づくり推進課 田所技師)

資料4、資料5について説明。

基本計画の目標とすべき指標などあれば意見いただきたい。

(歯科医師会 藤原分科会長)

事務局からの説明で、何か意見があればお願いします。

(歯科医師会 畠山委員)

県では、オーラルフレイルに関して様々な調査を行っているので、8020運動の次の戦略としてオーラルフレイル予防に力を入れるべきだと思う。成人期で8020運動を知っている者の割合の増加があるが、オーラルフレイルに関しても成人期からの認知度向上の取り組みが必要だと思う。

(歯科医師会 藤原分科会長)

それからもう一つ今話題になっているのは、企業向けの歯科検診で法定義務とされているのは、労働安全衛生法で、酸などを使っているところのみである。しかしだけでは不十分であり、例えば、オーラルフレイル予防に関する検診項目のようなものを、秋田県独自で実施しても良いのではないかと思う。

(健康づくり推進課 田所技師)

オーラルフレイルに関しては、県では昨年度に実態調査をし、その結果を踏まえて事業を行っているところである。その事業の効果や成果を評価するためにも、きちんと具体的な指標に入れる必要はあると思っているのでぜひ検討させていただきたい。他にも、例えば今年度は大館市において、東京医科歯科大学の研究事業の一環としてカムカム健康プログラムを実施している。例えば、煮すぎないことや細かく切りすぎないことで、普段より噛み応えのある食べ物をお弁当で提供し、歯科衛生士や管理栄養士の講話を月1回半年間継続して聞きながら、介入前後で口腔機能や全身状態に関するアンケートの変化を調査するといった事業を行った。先ほどの調査の中にも、噛んで食べる時の状態や、噛む回数、速さを調査している。栄養学的な観点からこれが正当な評価の仕方かわからないが、歯科と栄養を繋ぐといった意味ではこういったところも検討する余地もあるのかなと思っている。口の機能だけではなく、もうちょっと幅広く、例えば歯周病と糖尿病の関係も然り、歯科だけにとどまらない目標設定もあって良いのではないかと思う。そうした観点でも御意見があれば伺いたい。

(医師会 遠藤委員)

医師として病院の立場から話をさせていただくと、医科歯科連携は昔に比べて非常に力を入れているところである。具体的には、いわゆる全身麻酔手術、例えば、悪性疾患や高齢者の人工股関節置換術というような、限られた疾患に関しては術前や抗癌剤治療の前に歯科受診すると保険点数が医科も歯科も加算される。ただし、連携しており登録をしている歯科医院でないといけない。全身麻酔手術の後、しばらく食事が摂れない時にも口腔衛生状態に問題が起きやすく、歯も磨けないような状態になってしまう。そうなる前に歯科受診をして、むし歯があれば治してもらおうとか、そういったことをやっている。健康な人の歯を守ることとまた一つ違った意味で、疾患のある人、治療をこれからやろうとする人の口腔内の環境を保っていく観点も必要かだと思った。

(歯科医師会 藤原分科会長)

実際に能代市の厚生病院と、能代市の歯科医師会は年間 300 症例ぐらい周術期の口腔機能管理を実施していると聞いた。様々な疾患において口腔内に多種多様な症状がでることがあるので、それらを予防するためにも確かに非常に必要なことだと思う。

(健康づくり推進課 田所技師)

基本計画の改訂について、今後の流れを簡単に説明させていただく。これまで様々な観点から今後の方向性について御意見をいただいた。それらを踏まえ、概ね 8 月ぐらいまでに当課の方で新計画の骨子案を作成し、9 月に分科会の委員の皆様に変更してメール等で方向性や内容について共有させていただき御意見を頂戴し、それらをもとに 10 月ごろまでに素案を作成する予定である。その後、委員の皆様にご共有させていただき、また御意見をいただいたものを修正し、12 月を目処にパブリックコメントを実施し、広く御意見をいただいた上で、来年、令和 6 年 2 月に次期計画案を県議会に説明し、令和 6 年 3 月に次期計画を策定していきたいというふうに考えている。実際に集まってという機会がそれほど多くはとれないが、最終案が出る前には改めて分科会を開かせていただき、方向性について御承認いただけるような機会をいただければと考えているのでよろしくをお願いしたい。また、畠山委員から参考資料 4 ということで情報提供をいただいているので説明をお願いする。

(歯科医師会 畠山委員)

健やかな子育て支援のチェックリスト及びその解説書の活用について、日本歯科医師会から各都道府県に協力の要請があった。このチェックリストは秋田県版として編集したものである。乳幼児健診、学校検診、歯科診療所で活用することを予定している。本県における児童相談所に寄せられる児童虐待の相談件数は、平成14年度が39件、そして令和2年度には651件、令和3年度では596件ということであった。歯科から虐待が疑われる場合は、関係機関に情報提供や情報共有する予定である。次年度からこれを用いて、各検診または歯科診療所で行う予定となっている。

(歯科医師会 藤原分科会長)

これで議事を終わる。

(健康づくり推進課 長谷川班長)

藤原分科会長、ありがとうございました。また、委員の皆様におかれましても、大変お忙しい中、御出席と、活発な御議論をいただきまして、大変ありがとうございました。

これをもちまして、令和4年度秋田県健康づくり審議会歯科保健分科会を閉会といたします。ありがとうございました。